

仙婦総会におまいりして

私は、わかいころ、里のまちの市民病院に看護婦として働いておりました。その経験から思うのですが、お医者様や看護婦が行う「医療」は、あのころと今の医療とは随分かわったと思います。

どう変わったかと云うと、昔の医療は、個人的でした。A先生は、E子さんのこの病気を治すために一生懸命取り組みます。B看護婦はC男さんのリハビリに付き添つて介護をします。例えばそんな具合に、昔の医療は云わば個人対応でした。

ところが最近はそうとばかりは云つておれ

域医療とか云つて、ある一人のお年よりの介護も、その地域のお年より全体を介護するな
かでおこなわれるようになつています。

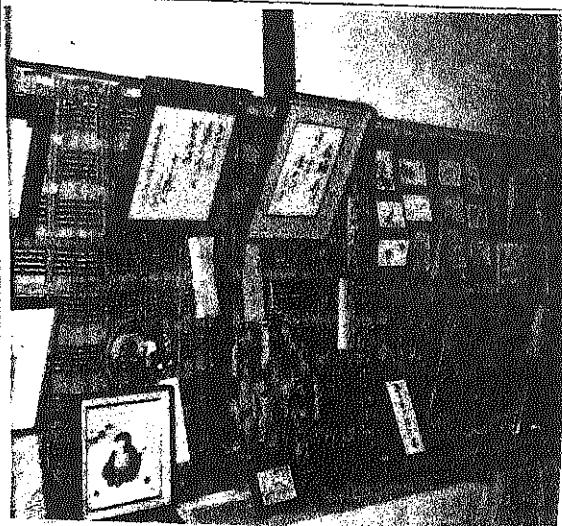
若いおかあさんの子育てだつて、集団保育
といつて、地域全体のとりくみのなかで保育
支援がおこなわれるようになりました。

その地域全体が健康志向でなければ、一人
一人の老人介護も、一人一人の子育ても十分
にはできないのです。

かの難民救済にてかけたお医者さまのお話を聞きました。

この一人の難民の病気を治して上げよう。この人を飢餓から救つて上げようと云う古い医療の考えは現地では全く通用しないのです。その人に効く薬を投与しても飲み水のない処ではどうしてみようもありません。食料をもて行つても、調理用具がないころではしてみようがないのです。

たとえレベルは低くとも、その地域全体が一定の生活雰囲気が整っていなくては、どんなに進んだ医療をもつて行つてもダメなんです。



7月8·9日仏婦作品展示会

前のご院家さんがよく云つておられた。「親鸞様は道俗時衆共に同心にや。みんなでいっしょに、お念佛しようなというのが真宗や」と。

有りがたやさん・信心やさんそんな特別な人は一人もおりません。ご法話を聞いているのか分かっているのか、だれもまあ昼行燈（ひるあんどん）のようなものです。ところが、今日の総会を見て下さい。みんな一人一人小躍りしながらといつてもいいほど喜び勇んでのお参りです。作品展示会も毎年のことながら見事なものでした。

一人一人には、生活の苦しみ、家庭の悩みもあるに違いありません。それを胸に抱えた人が、みんなで声をそろえて「おつとめ」さんをするのです。「暑い暑い」といながらお斎の準備、お茶の接待をして下さるのです。

今、わたしがなんでこんなことを思つたかと云いますと。実は今日（七月九日）、私たちのお寺で仏婦の総会があつたのです。わたしは毎年参加させていただいていますが、ことに今年は、とても生き生きとした雰囲気が感じられて。「ああこれが本当の仏婦だわ」と、わたしもうきうき跳ね上がつてしまつたのです。

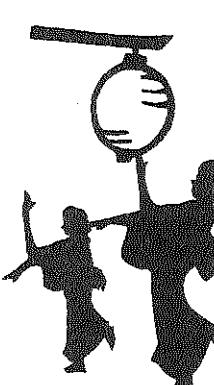
勝林寺の仏教（青）壮年会は、兵庫教区で最も早い時期に創設されました。そして出石組内は勿論、兵庫教区全域に仏壯組織がうまれる先鞭先駆の役割を果たしてきました。その功績に対し「兵庫教区仏壯連盟」より表彰状が贈られました。



7月9日 仙婦縫会

八月のこよみ

一日	田村春男氏宅法事
四日	御同朋結集大会準備委員会 いちょう会（→八日）
六日	人権啓発推進員養成講座 人権を考える町民集会
七日	人主戦没者追悼子爵蘭分盆△云法要
八日	日高町役場
十一日	検診
十三日	出石町内わ 分盆参り
十四日	瀬尾家法事
十六日	朗読ボランティアあすなろ
十九日	アソビも研修△云
二十一日	森井 勉氏宅法事
二十二日	出石組連研
二十三日	あすなろ（録音）
二十四日	兵庫ビハーラ研修会
二十五日	出石町役場
二十九日	小学校 P T A 作業
三十一日	日高町役場

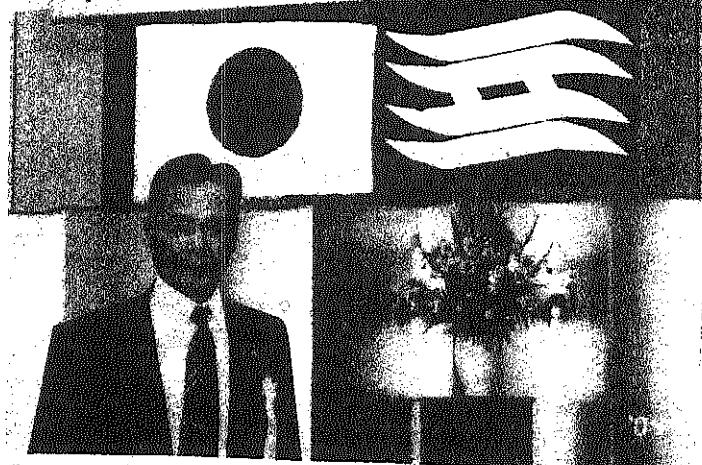


一
益

ウランバーナ、その音写「玉蘭盆」。

ウランバーナ、その音写「孟蘭盆」。意訳して「懸倒」とか「倒懸」。ひっくりがえつたものの見方、ひくつりがえつた生き方をしていいかを厳しく自らに問いましょう。お积迦様は、夏安居ゲアンゴ（夏の長期勉強会）の最終日（自恣の日・満月の日）にこれを教えたと云う。

平成16年兵庫県功労者表彰式



元勝林寺仏社長で現在門徒総代在任中の
平野・松村さん
が、このたび兵庫県知事より、
「兵庫県功労者功労賞」
を授与されました。

民生委員歴24年。現在は出石町民生委員協
議会会长として、曲がり角に差しかかってい
るといわれる高齢者福祉・障害者福祉などに
たいして懸命奮闘中であります。

平野さんの温和誠実な人柄は、その家庭生
活においても地域社会のなかでも暖かな人間
関係を醸し出し、なかんずく勝林寺門信徒に
も御同朋（みなきょううだい）の社会の雰囲気
を作り出していくくださいます。

老人という者は、とくにいまどき、福祉施
設で、何が孤独なものかとおっしゃいますが、
これは、歳とつてみないとわからんことです。
家族と一緒に暮らしていたつて、老人ホーム
でお連れさんと過ごしていても、云うに言え
ない孤独つてあるのです。

おそらくこの祇園福祉施設に入っている人
は、みんな一人一人云うにいわれぬ淋しさの
なかにいることをお釈迦様は、放つてはおけ
なかつたのでしょうか。



『阿弥陀経』さん

卒寿間近の老婆
私は幼いころから、誰に教わったというこ
ともなく『阿弥陀経』さんというお経をいた
だいて参りました。

結婚して、禅宗どこのこの家に来てからも、
ずっと今まで時折このお経を唱えております。

九十歳に近くなつて、毎日デーサービスセ
ンターでお世話になるこのごろになつて、ま
た急にこの『阿弥陀経』さんが、ハテサテこ
の今の私のために、お釈迦さん説いて下さつ
たんだ気づいたのです。

と云うのはこのお経は、老人や浮浪者や難
民孤児、そんなものを収容している「祇樹給
孤獨園」（ぎじゅきゅうこくよくえん）。日本でいう祇園
(ぎおん) 福祉施設でのご説法です。

普通、お釈迦様のご説法は、人里離れた森
の中か、静か高いお山の頂上に、たくさんの
お坊さんをあつめてお話しなさるのですが、
今日は特別です。老人・みなし子・身寄りの
ない浮浪者。そんな人を見捨てる訳にはいか
ないと、わざわざこの福祉施設に来てくださ
ったのです。

私は、この『阿弥陀経』さんを、親鸞さま
から戴いたのですが、その親鸞さまが「この
お経は、釈迦さまだけではなく十方の諸仏の
本命本音なんだよ。その証拠に、このお経は
息壇（せ）きつた一人がたり。

みんな孤独に胸ふさがれて声もでない孤独
の中で生きているものが、どうして質問し
たりなんかできるのですか。だからお釈迦
さんは、その孤独と真向かい、お坊さんな
かには話さない教えの本当のところを、息
せききてお話をさつた。

「阿弥陀如来さまは、今あなたのつらい胸
のうちに呼びかけていてくださるのだよ」
「極樂淨土一如來様の世界では、みんな一つ
処にあえるのだよ」

私は今、家庭的にも幸せに暮らしています。
淋しいことなんかあろうはずはありません。
がしかし、そういうなかにありながらいっ
ても云うに云うえぬ「やっぱりひとりぼっち」
と云う孤独感はどうすることもできません。
そういう心境のなかで、毎日この『阿弥陀
経』さんをわたくし戴かせてもらつています。

この方は、五十年たつた今、ただ過去帳
に名を留めるだけで、その跡を追悼する家族
親族も絶え、悼む人も亡くなつてしまつてい
ます。（出身の村や町での追悼会・慰靈祭も
全く今ではなくなっています）

全体100名余りのうち、後の三分の一、
三十四名の亡き人。その三十四名はまた二つ
に分かれます。

六〇歳以上（当時ではかなりな高齢者）の
お年よりの二十五名と、一歳・二歳の幼児。
乳飲み子が九人です。

当時の食糧事情・医療状況のなかで栄養失
調や医者にもかかれずまま、黙つて。辛抱
して亡くなつてしまつた人々が、全体の三分
の一を越えるという事実に、あらためて、戦
争の悲惨さ・むこむさを再確認させられます。

今年、五〇回忌を迎えるのは、昭和20年、
日本が連合軍に降伏したいわゆる「敗戦の年」
に亡くなつた方々です。

わが勝林寺の門徒個数は200戸あまり。
それなのに五〇回忌として過去帳から繰り
出された方は、なんと100名を越えており
ます。

改めて戦争と云うものの悲惨な現実を目の
当たりにした思いです。

今年も 10月8日午後2時半
全戦没者追悼
壬戌蘭盆会法要

五〇回法要記念誌『悼む』より
全戦没者追悼
壬戌蘭盆会法要

その昭和20年の一年の間に亡くなつた一
〇〇名あまりの方々のうち、当然のことながら
軍人戦没者—その殆どが20代前半の若い
兵士たちです—が、金体の約三分の一の三十
二名です。しかし、当時、戦死者の法名には
「院号」がつけられ、空しいことながら一応
その榮誉は讃えられております。

一方、同じ戦場で死んでも、院号もなにに
もなく、空しく屍（屍）を野にさらされたま
まの人が、また全体の三分の一で、30名の
名前が残されています。満州（現在の中国東
北部）開拓移民団の集団自決でいのちを散ら
した方々です。いかにもその殆どが女性と子
供であります。

この方は、五十年たつた今、ただ過去帳
に名を留めるだけで、その跡を追悼する家族
親族も絶え、悼む人も亡くなつてしまつてい
ます。（出身の村や町での追悼会・慰靈祭も
全く今ではなくなっています）

ものも云わず、時のながれのなかで忘れさ
られようとしているこの人々が、背負わされ
たこの戦争の傷痕を、いま私たちはどう追悼
すればよいのでしょうか。

ご遺族はもちろんで門徒各位の参詣を
お待ち致します。

今年も 10月8日午後2時半
全戦没者追悼
壬戌蘭盆会法要

テレホン法話 0796-52-5800

FAX 0796-52-5823

0796-52-3083